た十二年度素に近ては影響をな影響影響のほうな影響の情感をあめとして、各省に取り出書とに決定、之を豫算通過後の實行豫算に於て實施することになつた、即業要につき特に人件費及び 營繕費なざを主として節約繰延べを行ふこついては現下内外の時局に鑑み 殆んご修正の餘地がないので、一般事

の形大撲算を以て經濟界の實勢 に副はないものと嬉し、之が動

「東京電話」 結城 動相は三十個

数が記上され、管轄費の如きも之が物資の需要を増加する點に於て物質域策上甚大な關係を持つてみるので、之室経費の削 分を占める 國防費に 假その他に及ぼず影響を顧醒し て酸出腺界の削減線延べにつき ので、 を實行を即する言を申合せ十一時 建めに記解に管することなく、著 で あの如きも 四十分散脈した

馬塲案を再檢討 あす大藤省議を開催

馬塩酸相の立變せる税酬整理殺に質量次官、石波主統局長以下出臨 |東京電話||大郎省では六日午後||楽を作成し改めて謎跡に提出する

の明年度豫算

如何なる取扱を受けるか?

軍の規模地マラガ攻略を企圖し数 将軍の坐来する巡洋艦カラリアス ン革命軍は地中海岸における政府 揖呼の間に望んでゐるが、リヤノ 【ジブラルタル四日福出】スペイ】 は米邨廟を進めて来たが、愈上四 製以下革命軍々艦も之に相呼應し

四班牙革命軍

マラガ網攻撃

假主義貿易方針によりむしろこ
「、質易減計和、輸出減制税は求
一、外貨間の特別税を修正すると 保上これを承認すること

が第一線に活躍する結果戦争を 一種して仕難つたが、何れに老 は十二次には十九次に優先の組 は一世には空間である、海道省も 以上で観視三十九ヶ山市 さ、七十戦闘中隊を影響するが うも態展三十九ヶ中隊とならる。 では、七十戦闘中隊を影響するが らも態展三十九ヶ中隊とならる。 では、七十戦闘中隊を影響するが の第一部が出来上る像定である。

羅軍省は無限約下の太平洋上の

類節する歴定である。海軍省航空

同長アーサー・クツク提督は四日 丁間中縣第一級機一千九百十畳を 順勢に個へ一九四二年迄に空軍七

上重大を加へるに至った、容量海軍においては容量の任務が適

るが、航中會談は一の成界は多大の選足を表明して 上南西南京の結果に関しイタ 山間盟」ミラノにおけ

紙は四日の紙上で左の如く述べて 感を示し、がポロ・デ・イタリア ー各新聞も創設の結果に好

単土党談の結果トルコ政府は多 最初に海軍規模中を確定など したから、今後イタリ、取所に 関し続連の窓を増くことはある まい

を地震フェンヒローラ、トレリノ「つよあり、マラガ別近は今や登くマラガ西万五十キロのマルベリヤ「総軍々艦敷製もアルベリヤに向ひの光流を切つた、陸上部隊はほに「向つた、對院セウタに確治中の革

面暖 員

の待遇を改善

に増給を斷行

尿畿道の明年度豫算

四日編成を終了す

地の下に陸神空相呼順して縄攻撃シラスを出越投機地アルベリヤに

日午前七時を崩しりヤノ将軍総指一四日午前五時十五分一層にアルへ

米海軍が空軍機 千台を整備 一帯、文部兩相も適當の時期に駅位がに決定するに内定し、その他外がに決定するに内定し、その他外が、以供整相は過館採用 | 「駅の配際に対する版本方針を整明 提出し各間原の意見を優して然るかなる機能に材育相の名を以て内 和中で、こが脱稿光景製に脱設に し、時局に属する指揮精神を試明 し民心の安定を闘るべく目下大橋一時期は早くて八旦頃になる模様で り針であるが、これは行政機構政 **人臣を置く歴定である、前して際** 「東京電話」政府は出來るだけ選 を企闘しての策闘であり至り 拍粉兩大臣は當分衆盛で 施政方針聲 明は八日頃 九四 後態炎することになった、酸炎の で各関院の感見を取題め文案を担 一年迄に

用に供されてある。 一般語に復はれるに至った、自動性

地中海問題に對する座園政府 伊は満足を表明

の意見一致を確認し

のため渡峡中五日「のぞみ」
ス郎氏(魏道昴技師)海外

患性インプレを抑制して物質 天地玄黄 ます。」

を仕扱じる『スク・』 一腿しだては無用にしや。」 「何んでござりますると。」 と仰しやいましても、わたく

や°3 人を殺めて何んとするのち は配に振現標へ御酢脂に・・・・・・・・・・ 「え」止しやらぬか。意語に来た

向上と國語普及の徹底をめざす

けだし一石二島の名紙、他で

以外は、これを蔵料の手許に押い

識質に提出されてゐる模様は

に取し

一年度追加豫算中に計上

正義で会十五談の査定を急いであ 泉酸道の十二年度推算は一日一課

五干国づくを支給することになっ、リ、道路鎮襲費、八五、〇〇〇回

新規計畫事業

ル、仁川際院の敗奏

ヲ、利川歴院の暗禁

KO 0000 E 000E

ランスを削ることしなるものと見

育担以下金曜原田 を湯準した結果 | 方については前内閣の四種で設定 などの版本方針を決定してが取扱

に厳固の節標を行つて、これが言 も重大緊急缺くべからざるもの

「知らいで何んとせらっそなたが 「そ、そんなら日那様は。……」 ませぬから 『延命院ぢゃ。』 『谷中と仰しやいますのはの

す。賞品は只今發送中で御座います。致しました。賞品の到着を以て御承知願ひま設にした。賞品の到着を以て御承知願ひま

際式會社

木 村 製

藥

所

極に背質はれて、脱け穴を出て來 た時から、この二つの眼で見てるないか。 「そのやらに驚くことはないでは

問題なされませねことにの 「そんならけるのことは、何事も をして取らせうぞこ

驚異的成績を收めました事は本舗として誠に感謝

、附賈出しは、御愛用者の多大の人氣を博し全く |に全國新聞紙上に發表しましたアースタム大腦

堪へない次第で御座います、嚴正抽籤の結果を

に御披露申上げると共に今後一層御愛用賜はら

ことを懇願致します

のちやから、何かなうては、 らはの配は、お身が描を歌し前に 「はいっ」 したことを、明々と見回けて 見の振りをせよと云ふても、

から一緒に、谷中へ行つてはくれ のうころっこれ

登百名機

(敬稱路)

「マサラ(久間学)田中政学へ翻譯の関係男子(若紋)オ・フェ、選挙から(月畑)「マサラ(久間学)田中政学へ翻訳書、西半畑会院、「大水源」の観点・田本政学へ翻訳書、西半畑会院、「大水源司(韓原)、博修和「「食蔵」の観点・日本語「「高都・井田・政学・「大瀬市(大海市)、「南北市」(高瀬)・「大水源、「大海市(大海市)、「南北市」(大阪市)、「大海市(大海市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「大阪市)、「

(179)

はこんなもつぼけな世文で が悲しい、强国日本のブラ こんな誤った話は對外的に 日本の工器能力に對する設 なら仕方がないが、も少し てゐる、銃艦不足と言ふの はびくくくせぬ能力を持つ イドを持つ我々國民は各方 めたいものだ、第一

附記官長、川越法制局長官の手許 どといふ話を聞くが實に歐で引受け至難ではないかな

にこゝで人を殺めましてございま

ひはございませぬ。決して逃げ継

『わたくしは仰せの通り、たしか

「何んと云やる。」

「日那様、どうかわたくしに鍵を

枝完二性

保

旧世

る優に品來船

菜庭家の産園

西班牙政府機

十年初級領事フォーブス氏は三日新造に命中しなかつたがパレンシ め突如射戦を受けた、顔丸は幸ひ スペイン政府所屬地行機三張のた 【ロンドン三日間監】イギリス汽 一的スペイン政府に對して嚴重統

首相秘書官(醫)

|住内開總理大昭顯出自來內務實|

要加越市長(特島市長) 上田 3

中の庭四日午後鹽城中の庭四日午後鹽城

『誰の感ぢゃ。』 「なに、意唱おや。」

化钾方面 〈 以明記氏(本社屬告部長)同上

け穴を通つてこゝへ來たことは、 「髪も大概にしやといふのちや。 そなたが近蛇線のお屋敷から、 「ほ」と、鍵も大概にした。

け足の君来らを思はしむ、萬事 | めてゐたが、やがて突然慇懃に頃

一人一話

日本の庇頼製作で基の能力

の各閣僚はそれと、他相の衛

て既住閣院を置く方針で経衛を逃 痛へるため速かに適當の人材を得 子を兼護してゐるが、凝密再開

小型語」「林内閣は組閣を含い

自相を始め結城、山崎、

議會再開汽に

専任遞相を決定

開作及び客貸店の新造を行 は一干三百萬風の豫算で機 年訛器に着手し、十二年度十二年度から北幅増備五ヶ **を接定であるが、松近この**

手島の機送陣飛化のために 正しい認識

質を関し、之と併行して産業の振しめ國際情勢に適應する國际の充 民別神を作與し、國體を明別なら四約政策を鑑別することを避け國 るものである間を述べ館民一致歌り、以て國民生間を安定せしめんとす 興を闘り新遊館に庶政を一折し、

適い主従のよしみ、何事も見ね振

全く安心です として備へておく

痔疾、お化粧下等 物世、頭痛、歯痛、 傷、霜燥、打傷、鼻 りょ、あかきれ、火

『何も云やるな。この塩のことは

英汽船を射撃

伊土兩國會談 船ロイヤル・オーク號は二十午後

然視勝部長(衛生部長)

灵表

發

者

定價

全國薬店にあり

したのでございます。

月韶りをいたして居るのでござい くしは配月歌かさず、脳現際へお「御墓器ではござりませれ。わた

したが、ころ。」 「それはまア添うございます。」 「さっちゃっ」

いてもらひたいのちゃら 一そなたにも、わらはの個分を開

| 1、○九〇、〇〇〇 マ、京城市的近田所新衆 | 1五、〇〇〇 マ、京城市的近田所新衆 | 1五、〇〇〇 カ、中小丁楽者の助佐 | 1五、〇〇〇国 | 1五、〇〇回 | 1五、〇回 | 1五、回 |

ある、而して聲明内容は其體的な **西に向つて正しい認識の下** に対り林首相と信見、重要協議を 敗領後首相官既に居残り約三十分 要求電話」結城を相は五日間談 ア」と形きの壁を上げずにはあらいませらとも、鋭めたことに開題た。が、それと同時に一段び「あ」す。たとへどのやうな説合がござ を見詰めてゐたのは、元の主人老 身近に佇んで穴のあくほどこつも 降つたか、地から湧いたが、直ぐの場から、わたくしをお連れ遊げ れなかつた。 『寛永寺様へ、御髪龍にまめりま』「何處へ行きやつた。」 「これは、日那様……。」 女系村ではない とつて如何にも終然と振り向い おころは、足の魄力心霊いたが、「何んと云っらとした背後から、鋭く呼ばれた」さいませ。」 て、微笑ひとつ見せずに腿を蹴つ それでも次の際間には殊更平衡を それもその響であらう。天かられはいたしませぬゆる、直ぐにこ おころは 脳母を 見せ まいとし 権を刺してそのま→行き過ぎよ | 打つて、役人衆の前へお突出し下 紅梅白梅(土二)

「これ、ころ。」

まれてす。 科学的 はないの

~そのやらにあわてるには及ばぬ

を整へるのです。

した怪我や火 傷にもお肌の

して榮養を與へ、 ースタムはお肌に

大防空演習舉行 陸軍記念日の催し

び凱那の職類に主眼を迎き京城市軍を中心とする軍政一動の脚を顧酬を行ひ一殿府政の軍事起を立て輿に来る十八月第二回僧会を脳し其壁配行事のプロを決定することとなつたが、本年は

强制處分で收容

遞信局、極度に緊張

にチョンマゲをのせて器別に手つきで々歴は外部は内々とやらかの夜々人能に々恒例の豆徹さに繰り出して、窓真のやらに陳羽織

探檢小説みたいな話

海賊キツトの掠奪金が 我領七内に匿してある

ロイド君豆撒き

職の人意識チンパンデ **馴染の大阪大王寺動物** 坊もかん嫌うやんにお

一般の手紙を添くて本社へ影問方を一般の手紙を添くて本社へ影問方を 依頼した姿談があったが、五日新一

に……」

送った

なった知道光打に對し既朝の如く

い……元気を出して悪薬にいることが、て本地へ同情重を聞いた、「まだ一度もお會ひした単はご」を添って本地へ同情重を開いた。本地でとして此の一面を受取って下さら、一直の優しいお願さんは演奏所楽物として此の一面を受取って下されている。

を添へて本社へ同情道が同いた、 と女の子らしい同情に盛れた手能

ポリドール密音級

オ歌 三五〇回事

去月卅日明百町のアベート大災で | 義州の十三歳の少女から

けふ新義州の一少女から

慰めの手紙と香奠国

ン涙の贈り物

用な手つきて

し大喝宗を博しました(大阪政)

、を行ひ同七時ごろ取調べを打一へ、また村上紀理縣長は孤山暑及

内鮮滿の空陸連絡す

た金は一個とん(那様にし、局一九三天年十二月二十八

脱場所は遊覧と日本本土と

製石とかけ本の領土内に陸 何は、配達したものかと頭

されてゐるといふとてつも て三億五千萬國)と设置な

たものだがどうも同つ

には載つてみない

父何と御殿キットが病がし 騒ぎをする他の中にこれは

ネチカット州サウシントン 一通中央が延島に舞込んだ

めた金銭財政を日本の領土

ン」の切扱きでそれによる

はかり欲まれたと言つて大

「黒京電話」金の郷が少し

た宛名翌日人不明の手紙が

補助トラックの建設は必要

日本陸聯理事會聲明

されてをり相當の成額を駆げてみ 難識、日本航空資化間にの入資施 現在内鮮出の公路連絡は膨脹質、

個月頃から實施の運びとなった

行はれ頭行者は脱る便利となった

大神氏と共同で「三家庭」 大神氏と共同で「三家庭」 大神氏と共同で「三家庭」

識である

数を見るに至ったので廻くも来

多加によって内壁崩の交通圧絡は一

中貨車の間に預部を挟まれて即死村田衆人氏が列車組成作業に発事

四月からコースの選擇ご自由

には絕對反對

が大打三丁目妙斯院宣衛妙照が計学器材製に献金し五百四

返することになった 干例を同いし十九日野田地に配 近代に常の皇軍将兵に問題を 総で情然と戦ひつと守備が

以始人所以城場合分費では國母

慰問袋二千個

四安城全市

煙草修上げの利益から

死街と化す

干以哲軍激昂甚し

内部に内証礼録を生じ論語の左翼 なく既に二日赤色クーデター以来 国、王以西の部隊は何郡退の機構

安城外に翌定したが石赤色ターデ 復をみず温息を極めてゐる。 復をみず温息を極めてゐること 軍の一部及び共産軍は既に何田國 對して叛亂を起した孫盛九等東北 (上海五日同当) 中央の安盤に反

叛亂部除鎮定

本日

天使

牨

オ歌 一八五国カラ

ナー付 アストリント アスト

美十五円二

光十五円三人

丹四上

價符

防寒航空內靴

コロムドー芸芸は

子雅澤・香〆・吉浩田高

付品景飯抽(寿活業初等-)消縫点萬四 特四個

●特製防寒靴

本店 西川縣 養通寺町合資舎社 **十一 並来、 下間**く 黿

フンドー 身 カ Ø 仁 場造釀油醬杉高

歌行流即哪切眾

愈 あるところ Ŋ 鞷 髙 し價 11

僵

アタサー

鹳

用

+

異廿の田池

定岡四週八十回衛・明かるい家庭

ラック建設問題及び外苑の結果、補助ト版問題につき協議の結果、補助ト

對の態度を決定、兩問題に對

必更とする、オリムピック大管に練習用補助トラックを絶對に、新設オリムピック競技場別立

つて敗造案に絶對反對なること多大の支障を來十段れあり、從ックの主要稱目たる陸上競技に

上側間反動なることの音を重らに鉛土側に通告するとで各方面から司線の正式参加を受けたる壁上魔技に、梁を可決四日午後四時二十五分をあったのだと深る陸辺路は不可能で来す頃れるり、後、以て相楽を打切った、突員電は、加のため近父な交際辺路は不可能のくてはオリムビ「解決姿を振説の結果を數を以て同します。その主義の対象の大会である。

番ハイナシン 轉轍手殉職

に一部を客順し一般に公

した上、雪の上部はカチ/~に狭 日午前八時蔵当量は十七個に激破 報報をさんざんにたょきつけて五

視みの時間は当にもからず惜しゃ

地帯に珍しく零下二度の高温でで 時までもほりつといて、質温も高

みの的となって肚がなウインタースキー塩は健らにスキーヤーの提

送り子になったので頼山者へ聞けば四日午旬十一時遊びに出たまり

関することになったが、

人英博物館へも一部を沿

結して将びも束の間にスケートが

出来るからで原性のコンチショ 質をがつかりさせた、スキー不

置じ、質地調宜に向った三階級 の金鼎を受けた際近局でも頂別

吸血鬼退治

樂するやう指令し前读九十八日間(Wされてみたもので同談真質局の 共に四萬の龍樂題に對し「理に質」で各方面から同談の正式参加を要

社會教化事業に

匿名で三千圓寄附

"儲けたら又持つて來ます

〜府に感激のコーラス

平洋沖仲化龍栗合同委員會に四日 [サンフランンスコ四日同盟] 太

罷業打切り

苑競技場を改造することに競技場として現在の明治神

山葉オルガン

優しく明るく美な子様の情操を

からどうかそもらへお出かけ下が過开里は一米州圏の深雪です

圓を持逃げ四百

調酬・調子報は**若**劇

兩員御禮

降したことが傾明した

新部隊及び提出場場の砲兵施技がに参加した忠良軍騎兵第十師地自 仁那隊は何れも單週で中央軍に救

【上海五日同盟】過股の西安事

全般天氣豫報 6 たへのある眼覚音である

北 温度降る 望ったり

間めは盛りの

孔徳町の送子

低級の通り四旦午後五時から雨の一らせてゐたが、小田は五旦午時卅國の白雪に配はれた三碗整弧は一党襲を受け、スキーヤーの陶と

三防高原滅茶々々

スキー列車取消し

です、私の名前ではありまです。以前のは他かですが社會数化事です。私の名前ではありまです。私の名前ではありまです。以の名前ではありまです。以の名前ではありまです。以の名前ではありまでは、四段がちょく行って難けです。い、私は決して変名かった。公をを持つて来たのではありまで記憶は、社会が大きにいい、私は決して変名かった。というなど持つではありまでは、地館数化事業とし、四段には、社会が大きなにいいません。四段がちょうなどは、一般の表情に対している。

新刊・地理附圖

度初等學校の兒一表示、その他従来の地理附嗣その

満洲國でも採用……

間に低い聞かになった金融長は直

と歸つて行つた、奇特な紳士の訪

明すると思ひますが、本人が臭い行列に使ふことに決めました

は調べないことにしました」を見して歸つて行つたので身

十二の生命を幾乎にした匪与史道。の背伝上進動の監あり、在殿野牧昨年十月五日夜仁川神で沈夜し六一「蓮廳蔵生後の展覧は船長として

判決言渡さる

鹿島丸船長譴責

1000とサンーズンの三別のまと姿を隠ましたり商級東大門支佐で

マルワイ号アルワイ経済車 フレス号

知らせいたします いふことを

進

二月 特解歌一山 ロンボート」 御布望のトラ 御行は歌祭二 お方は歌祭二 を予念頼の予を

ず皆様に

部 変 取 場 工 車 轉 自 口 山 町 馬 傳 小・橋 本 日・ 京 東

カタログ選品

は、漢行師り等を設みし巧に析内

反物商荒し

連續的に二軒襲ふ

順天署に遂にご用

停心せず金根に直行するのであば いたまし飛ばりを企て祭職は強に てた事は単行中の列心から影を抱

節分の大雪

旺場は三尺

列ルに便乗したが同列山が深川に

を前述へて四日午町六時五分郎

)を作って深川にむかんとし列山

大田所他町李昌盛(こま)は弟祭殿、

【大田】列山の飛路りは危殿

兄弟飛降り

北学製紙 永上競技 | の図名述を初め、電気での気料に同という。 | 日曜好のスケート日前方柄の窓名 | 中大管の帯を開むた | 日曜好のスケート日前方柄の窓名 | 中大管の帯を開むた | 日曜好のスケート日前方柄の窓名 | 中大管の帯を開むた | 中大学 |

はじめ諸名士の『斑を買り込み

號七十九百四萬

待望の清津放送局

年、被害領原る多く一時社會の耳

| 総婚りセール六ヤード、假二十四 心方の我の戸板を破り中に入つて

商品原列側に避いてあつた反称、

高畑物華、宮崎松華代理第で別

証拠、同未選挙件公判は三十七世 地山下雅芸事中武夫。かに伝る 巨領の被害を與へその金で誑惑三 の上述家庭に喰ひ入り故東郷元帥 平男」群道政授を表看板に早大出

即市内本町支那人反吻原版永玉(香地不詳)前村一段監験再巻質「覇天」去月六月干町四時頭照天」製べた結果、原天和外西面部城里

(香地不詳) 前科一犯法院計巻賞 人事不省に陥りずは幸いの職事者のの(香地不詳) 前科一犯法院計巻賞 人事不省に陥りずは幸い機関を貢

現はまた砂しくも大雪で肝型は三 「展展」めづらしい暖客に前分の歳

人息子身投げで

母も後を追ふ

病魔と生活難に悩み抜く

統營に

辻强盜 兇器で脅し

現金を強奪

に呪つてゐた熊本縣生れ別科二

時から平原地方法院第三號法と

目を舞動させた事代だけに領轄人一関、灰色キール八ヤード似二十四

多多数で創て山下の指導を受けた一個、灰色吉朗へ背に低合のセール

千五百の聽取者募集に成り

來月廿七日店開き

假筆質質の質相。犯疑如何の和問

長の部間は整通りに進められたが一四十六国八十銭の取留を閉取され 殿傍勘人の同俗をそくつた、整戦一・ルニ十七萬一度他大反合龍四百 物の結果を案じてゐる被告の内餘 は傍聴際片隅には人目をさけて公 ぬ華やかな気流を測はせてあたな 要が一勝目立つて法廷とは既はれ 計道が発酵の若い女弟子等五人の

一眼になつてゐる折柄、同十四十年

の恐訟を窃取された事性は申告に

佐り輝天皇記法無で犯人担当に加 干ヤードの五十八回記北十八回

副四時頃また / 魔天市内幸町七

七里亞婦人西館に押し入り過茶セ

要まさ子さんのわびしい姿は

の如く三月二十七日であるかこれ「黄巻百郎名藤取香、造地院子名編「鹿に成芸服益と状に北野谷地瓜人クを明する清津成芸局用機は断報「番の黎紙等配筒"。作を重め低に出「もと登場以上の成職に幸光を配した新聞、北野文化史上に一エボッ「より先き常局では出音者部に應取「育財五百名の勘論に成功し、こと

非曲直を問ふ

崇専側の强硬な合同論に 崇中側沈默を破る

【1書】| 変せず全校 | 数となつて正面から 合同に一火盗を切った崇敬の強硬な態度に 数可決、翌四日正午左の如き長文の目的に向つて進むことに登設一

の財子」」即の情報教技師と學生大館の影明 今後の方針について便重に協議し決議文に對し劉策を識すると共に 定方針の分離影響論をもつて所別
た結果能別通り高鍵を示しても既

から同校節指所で教授館を開催、上我慢は出来ないと三日午後六時 對し今日まで唱りを耐め確認目型の整明版と決議文を観表し一般の 同十一時過ぎに至るまで長時間に をついけて来た紫中も最早これ以一門絵に配へた から引退するには、右三校は各次は官敬師側が平照の敬育事業の經營にからる崇敬、崇中、崇の經營にからる崇敬、崇中、崇の經營にからるとなる。

の非識を正し分離經營の正常な一一、崇敬教授園の整明によれば三一經燈就に合流方の動談を受けた景の向上の趣旨よりして金東元氏(んとする政略に外たらずしめ、本校委員は學行の元官教育 整斗蛇氏の立境を因軸ならし 韓南氏から分離經營院を航撃合同自分の復興を必須を国著し來れ 統領事の官解にして 四月景實技授書級事書活題、根國自分の復興を必須を観察していませた。

弟なり

たからざることを明言する 意思に非ずして金県兀氏の意 意思に非ずして金県兀氏の意 のものは前賦二委員の統一せ 五日の委員會は顕波騎

營を固執するはその真意宗れ邊背せず崇等、崇中の三校合同經する恵志派が崇中の分離經濟を にありた、假にも一枚經營を出

資を投じて教育事業に當ら

やな冬の清算

全州の極寒零下十度六分

案外樂にすんだ

撃量を豊富にし音聲を 美しくする咽喉保護薬 常に美聲を望まる↓方 の必携薬

主/理壁。疾を味り。脱を図む。 咽 効・喉の極落。 咽喉の破骨を抜す (定復・20-50-1-00)

新四海洋社选》届古

| 去。二日米明維熱語、即因行 の休迎所に少犯の後午後二回に記

が本冬の脱極寒で、大戦中の二十 たことはこの用度に過ぎず、聴食 六日は十匹一分、等下十疋を下つ となり例年に比し一度内外の高温

を促すと共に此處に吾人の徴衷を願たるべき京城英語文紙の反省 の經驗に鑑み部門との分離を主 を披瀝し敢て江湖の士に訴ふ

と改青の向上配画との萬金を別期間中の温度領非に比較して決議し、本校は製内の充實。 かさで去月十三日の電下十段六分 【全州】全州地方は近來節有の度」の温度についてみると

分離の 主張

月二十日から二月三日までの大阪

同位低額溫 署下 本年平均報過 等下

なり同じく例手より一度削後の

次器めいて來るものと思ばれる

失ひ土砂と共に出下に落ち土団め の三名は足型が扱いため適け型を

たつて即記一名は優死し李登録

たために、右離に駆倒を受けたのだけは二名の 中には さまつてゐ

順天器型は公路と共に現場にかけみで一能を取出めた、急報により

け検点の米南人の死機は同二本 金配長及死亡者の實叉に引渡っ

倉庫破り

籾廿四叭を

盗んで逃走

本師・東京提覧

山吉商店

On 離 連絡優秀船 北鮮門司阪神金行

日本語の開催(上等) は 中 税 22 大阪商船脈出帆

くものと見られ、長和虚骸は未一次、不同事ら内臓陰里率並持、たことあるも、大道に於て腹に赴一次、不同事ら内臓陰里率並持、た

であり、これを昨年に比べると一

客下

M =

校見電を初め析式の数弦で騒つた は府内各自公書、湘道、國館、南県 土をさして凱旋した、このけ原籍 り即用船に分乗してあこがれの郷

人夫埋没

きら

美しいお髪、思はず見惚れる

どんな白毛流形でも壁洗ひせずすぐ迎る。永くはザず毛を腐めず、クセデチャレが頂る、是非一度お防とデザンとが頂る、是非一度お防し下さい。

京本行(急行)每日原代的

即山行(急行) 街山城山野

昨年平均氢温

山川候所長説明によると次の通り

代に図合する立版な中等機校と 語し色にもうコー 張られて私に分機經濟論を集団 いる政府者の立場から主張して して充留した教育を行ひ度いと からして合同經验は敬青の宗 度豆城 方無以

北鮮として珍らしい冬

天を嫌つて 毒殺を企っ

方ラチャ商間では目さましい既込

職を展開してゐる、なは瞬間當局

ようく降りました==外金剛の雪

愛人に上せた揚句 淺墓な十八の若妻

に萬金を期する智である、しかし 総放送を開始し罪々しいスタート

一般を完了し同二十日回からは では選くとも三月中旬頃迄には各

ベくプランを立てしゐる

ペくアテンと立てよる。 「韓を殺害せんと別を見てゐたが、「方申も共和解派として三日流譜如釈を総財政してこれに別認せしむ」て同里郡中申武長(p)と撰を道じ「し二十九日郷郷釈嗣(中である一 七日犬の好物馬飯に前性間遠を渡一選取調を行つてゐる

税と思辨歌(しょうこうぎょ)に「て同里郡中申武長で」と関を通じ、し二十九日湖循収闘べ中である一種を懸念を抱かれてあるが北畔磐(原で」の実験(具代でい)は天を渡つ)の優栄され事件を伪照書員が採別種を開放後のローカル放送に営ては「【大田】除駅排業川道元山里原公(入してすくめたが忠実に誇れてそて開放後のローカル放送に営ては「【大田】除駅排業川道元山里原公(入してすくめたが忠実に誇れてそ

四日宗實校友會幹事告告明、杜鳳一中郷斗並校長は左の如く協つた ころなり、何んとなれば巨額のの整明は吾人の不可解とするとに整夜の外なことの崇祭教授の 記事は事質無根なることを言明 崇がの引輸者なき殴り三校共假に崇中は分離経済可能なる ぜざっことを言明したりとの分離調磁は現經營者において 数育者の立場から當然 崇中校長更に强調 分離提替系を排する理由更に

私態からの主張でなく娘中を時一般く平均温温との差三度前後を示私の分離単級經費方針は私利、「香油できるメール利目で展示する 高温であるが、昨年は国際に思う してゐる。而してこれを立得以後 寒威はぞには 身に應へず

知点象低況につき雄悲制版所では「キーコンディションでありこの調 【語画】繒柳地方に於ける一月下】尺、三腕一尺五寸まさに絶好のス 雄基測候所の打診

大小スキーヤーは大概がである。

「全別」二は初が内担当れば原内に「金別」二は初が内にのよった。

0

てあることが原政によって呼迎さ

間めた、之を関するに営物の不 要類は再然し一時は『歴史初を『 のつちが旬末三十一日には又 っちのから北西町吹き取り』 【羅律】二年間の養務兵役を開出しれ断轄至州署に阻け出られた、 蓮沼部隊 滿期兵

洋行がつりを賣物にした

詐欺

"魔の書家"雅堂法廷に立つ

を断いて参加する地元選征各水上」れ得了是外にも明旧の犯行一切を

自供した

膝の説別兵は受多の武闘をたてトーかつた由で目下和人最後中である 間野の第一級守衛に住じた<u>随語部 | 月二十三日検査の際は何</u>野英収無 第四回丸ナ總會

新聞、来既には加廉商工例既、村田田により総合制ではスへと計り資施三面協商成九十六名列艦して一條と開究まで脱がせて逃走した。 宮は州一日午後一時から平南北、 上形式、正體監務與長、宮城收扱 「「長州」第四回丸ナ協館定期総一者た青年が現れ及ばを突出して全 三道の會員九十六名出席

から

り商祭に御注意

今 鼠が

の低い

十大五二八二七三九元神 早醇日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日

の長衛巻は流氷期の倒増保險問題 所改手をはじめ多数酷を見せ新井 | 現場を機能する一方線を背一名を 原案を何れも議決 を出せとせ まり所得金二十 四國 引送の上級選取高へ中 都井南州軍は加限となり

通り可決確定した 米製の策里形の三項を強く職なんを飛頭に致験の辿り態定鉄間問題 頭配師を述べ直ちに左の議案を見 で開館の標期をなし聞いて加集師

野削強長の長拠息の て終いるは大とスキ らないのはお隣の長 ず温光回と元山 たら世で禅を締め直 ・ヤーばかりと思つ …ところが納ま

え五萬間どころの比ちやない。 新は粕は渡るワ、除霊費は入る 五萬圓の金が落ちた、お膝で息 正月前の路雲は追井里にザット

州大豆の乾燥程度緩和

も入れて白いものを資金に難へと 路型折顧に九個温に物法(?)で 冗談ちゃない、 こちとらは

さしかよつたところ、「黄色上衣を」ないものか

日報報報のため年齢が、「日本のでは、ない、「日本のでは、ない、「日本のでは、ない、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「日本のでは、「

【釜山】病量にさい慢まされる母 | 水上器へ食器し例左旋上を埋除し | 腹因は低親と二人暮しの家族であ

釜山の哀れな一家

【編井里一山が降つ



意意 战略商店

茶門面 ジャバンクーリスインコーロー 一層 登山 釜山商船組 釜山地帆 九川郵船出張所 平器三中井・安東大和樹 京城三 越・参山三中井

ヤー潜を包括する配分置き範圍にだけの古道でなく、質に東北アジ 天業焼臥の信念は、日本、毎野

はその秘密彰明なる一例だ、つま

日本々来に充足し

於て開催、映斷界の衝元老大谷竹日午期九時より丸の内保建協會に 結異亡を賭けた臨時總額は廿五

日活新内閣成る

◇えゝしょんがいな

◇御殿の髯に銃執りて

前に立つた最初の人である、

小明見立

◇胎頭可愛いや数まく

朝鮮文化當面の問題

の眠る塊を描いり起し来れば、

古代住民の姿を辿る

1・ハウス」なるドイッ語に収め

加の最大の展因は科型を書が作る

と関する

世界最初の映

水道に記憶されるべき質配者フレ

鮮映識の内地選出は近来めざ の等各方面とも限使的である /新興キネマでは京城の聖経

陸軍藥局方收

力痛眠なる を頭症を 根痺に 痛

下のて血性も洗り、聯大ので素が、聯大ので素が、聯大ので素が、聯大ので素が、聯大ので素が、聯大の 足が輕くなつで動 た血が静化される でも赤くなる) ぼけて

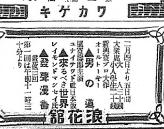
おもしろいまんざい 短脚レヴューショー 乙酸花月邊鐵速 日より 淺田家姉妹會 特等外 每夕六時間道 五十錢均 座日朝

湯澤商店

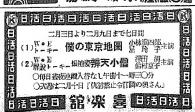
京城府本町一(旭ビル)

風流小唄

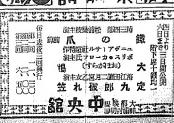














平内は流々勢ひ込んで鞭をくれ

学税

「ヤア乎内出来した。成る程獅子

あり、人に愛され親しまれると

子玉は疾風のやうに走り出した。は細かに駆けてゐたが、やがて獅

はんでみないが、たら世間のみ

馬術などは素よりきともの修改

幸右衛門は益々食品の念を指

新子士、温殿しく水を存んでゐ

皮膚泌尿花柳病

醫學博士渡邊晋

対手の出探一つで態度をガラ



あなたのお肌を

お子様のお肌を

最高標準品・シックで生々と整へませう

不上つたところでヒラリを打時が一剱道の御祖間に取りたら存ずる」

即即如何でございます」

お伽噺五百石(七)

金井蘆洲



^{陽學博士}德 永

西川門町午」(裁判所表面) 電話(先) 1 9 6 0 音



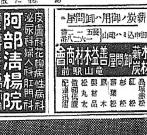
録人では魅かしからう。どうち幸 右衛門、實に置き入つた範囲では

『左様か、何分ともに朝か入る。

止めて、やかて静かに数を下り **預けぬ気の平内、 美ひながら馬**

「はい、私はもうたと不思議と既











診療 十二時年マデ及ビタ到



お肌を大い ませう

本語 東京 • 页图 〇 丸 見 屋 商 店

問題視せぬ總督府當局

油割當は不動

外油側の優遇交渉開始を

増産を希望

獨逸では縮少過程





の態度方針は寺内町建相の方針と何等起らずあくまで正々覚々信ず 間については大陸天の方針のもとに所言の性能に死めるもの ろに何つて領地するつもりである。一言説明した、

解散問題
政策の態度が遊遊依然として何節變更なま 3個同で不可難となすなら歴学所信に向つて運動すべきであるというながない。 つて、その結果変いて優力を求めるの携気を誇った。 でのは現立に優力を求めるの携気を誇するが自然を表する。 即内閣の像算は再検討の上敗めて提出する

而して中村唯相は城内閣の歴史に軍大使命と陸軍の特殊の立場に薩 みこれに支持協力をなさんと決定して居っことは今後の陸軍の動向 本方針状定が先状候件である、それによって政務官周辺も順既に本方針状定が先状候件であるが、行政総構改革を近行するかどうかの根政権の選集するかというないは、政務官を経過するか設止するかは一に り今後もこの主張に同等機化はないものであつては京の修正に向り今後もこの主張に同等機化はないものであつて結成酸相の手に優別分するものである。 随電散算について は従制通り関係情勢に優別分するものである。 機構改革 原田内間時代が取回相よりが見書か提出さ 侧

が傾伏を開びに帰し協議した結果がいて即内閣の圏域である内閣部 【東京記画】政府は五日の原派に

るを避けたがワシント 五日子前大使館場において詳細語

「パリ四日就本社特電」「呼吸所はヒー進かするものと別待せられるに至

フランス政府の見解

題セしむべく特に可感して組まれ

医原第一千八十四萬原面を把稿子

は編成を終了した京都直十二年

トラー銀統の河路演社及のチアノーつた。他総府は六十世委政権より「禁して、算の別事を中心にして統にいり四日報事和展職」市員所はと、進歩するものと規管せられるに至った既に総名の斉禄祥の持ち許りを

と見りに据へられるが當の大使は 大使がが住外相に撰せられてゐる

漸次穩健化

內閣總務廳案 再檢討を加ふ

【ワシントン五日間監】 林新凸記

は留任を希望

再び層点に聚込むことになった、

一意見を其中するに決定した

内服の財支政策での他につき報告 ちに南京に赴き国民政府には不断

芸統合機能たらしめるそとなった 「他板討を加へ新事態に即した国 相前継における決定談を子のま

【上海五月間盟】日支交渉停頓以

川越大使

新内部の関係とそれと、商見を選

門高部して来た。即も同大岐は林

來上海に引揚げてゐた川越大使は 照々七日午前八時半上流動列出で

これが共紀化については則内間の一に留するとを治認する言述へた

地方稅制整理

提出は困難

再檢討に相當の時日

停會期間延長は必至

見、地方段創物が常に開する報道

【上海五日間温】西安脫出後棚里

蔣介石氏南京へ

断策につき重要協議を発げた、同 即首相信取において結城既付と節

においては相信のは時を要するの

微詞解放記に對し

尾崎氏ら質問書

に関して健康側の急向を説明

豫算案再檢討に手間収る

政府委員には 事務官を任命

世上方法に別しか見を聴取すると一行つて立念することは困難であり

人間語の第上試相より大観者の意一瞬する具質能が動を決定し交配態には、「既不可能と見てゐるので近一の自動により認識の鱗態及動物に

政務官問題決定せず

雄氏は第一陸筆明和顧問周束方置。 縁むされる折囲車大闘心を擁はれるこに覚励した第一時點の地縁れ、であるが解散詞が各方面において

首相は種語の慶費に背かねと信 首相は種語の慶費に背かねと信 で関言した所の軍要種策はすべ 関系の安危製紙にも既するが如

き見込なくして解散を突翻する、機延撃において多数を削すべ

施院の整理解解放験が強へられて「ざる間を明にした、医言左の如く「東京電話」最近政府の一部に素」を指導するものと執るべき途に非

朝川川中に修正衆を作成するこ

において間臓の溶解を求めて各省 停留期間延長は最早必至と見られ

桁の上から見て十日までの

と見られてゐる。即も度は然の性。げて確認に驱みない意向であつてとなる。の「の方此を共主化」たる修正案を提起を述べの領別間の延長方を繋締。際頭についても出来的る限り繋用 之ら修正が見は配蔵演説において

の如き解散が非常時間に因し国際

促出し之に新内閣の修正意見。逝せんとする心向で、一般回したら建算家をそのまとの世紀は生活に近に

して別個の政群案を提出す

社會施設費は

相當削られん

先決問題は物價抑制

明治三十六年思想、小川の前大臣・光つてゐるのが、結城諸相である 桃内間の心臓棒然として、騒然一に出世、たらとう風人の衣鉢を展一 おさけに周田四脳の時ポンと置つ いで大見大臣のコールに飛び込み



三土木関邦を始め各職戦闘の脈説 | 歌記を片詞との間に不認要な形態教育の縁成をたすことになったの「浮音演説においては財団間の外境 と結城数相の見解に併行して新規 のご外交に過ば金統報告せぬ後足

今物言理能が光沙問題であると、交流就使光と外交上の態度がない。

常時の世風を疑り切って、きる

穂積博士の推写

「東京電話」林肖相が議師におい一方民族の生存維持健康せしめるた

め介目との間に四間正数と表示器

展行領取として乗り込んだので
年の安田語芝助氏の軸医役とし

算機成に関した現代質の表見ので、 Win 1870年の記載をなさず首相の記載的結構数別と歴史、内容は新華外の方針の説献をなさず首相の記載的結構数別と歴史、内容は新華の外方針の説献をなさず首相の記載的

安定敬として諸師説の實地に関し歴史交換の結果回民

一変構成に官及し方針を任明する故

富時の安田と言へば、一族を除

兄を銀行家として 総を避してある。 富時は所謝部 | 飲約込の半額に落ち、一味非識ない、 便は再放不顧 も総然として金織史上に揮く大功。 節的変態を発かれたが、 異娘様はない、 便は再放不顧

の的になったが、その後高層財政

と打きして買ひたいと言ふ彼の心臓配して買ひたいと言ふ彼の心臓配き、腹腔極防を狭端傾防に是

經濟の向上開發を

は確り仮を囂遁みにしてボモン」けて、時の井で蔵用は金錦窓地行。は好調を続け、低窓の名が云が立めて「仮を右へら迎とすれば、彼」の無跳螺な歌渓域歌の後を受しのインフレ窓等の姓格とは旧反射である。凡の「繁華内閣の時代で、その前の三王」の的になっただの性格とは旧反射である。凡の「繁華内閣の時代で、その前の三王」の的になっただ。

いざ拜見いたさん

金融史上に残す輝く大功績 □□--[その日---□□結城蔵相の卷

行した人め、遊歌界は極度の金融、銀は紫暗らしい巨利を映っのため陸端なデフレーションを戦。至つて、貸付高は岩と回

で受けた第一、第六助件の打撲 を引見してゐるが四日午後レント

一要とする記主治者から起表された

しかし野氏は豫定通り十三、四日

財商京に入り三中全會に出端する

世英氏は四日國民政府に對し近く 果京館重要報告のため層回したき

【周京五は同盟】 駐は支那大使許

□ 通路網定を終結する場合には富州 □ 随船駅が日本商船の巡田により返 □ 延は上に廃血を収失しないでう前 ■ 提集件を約するでう要求した

統は過程ドイク国際における混乱 英政府消極的ヒ總統演説に

麻布。マニラローブ。絹紡細絲麻絲。綿撚絲。麻綿。ミシン絲

で重ねて検定地が対象がに言及してあるが自につきイーデン外相は 地球に消化が地解を表明次の如く 生張したと映へられる

【其他工業用廠網絡各議為】 帝 阿 製 廠 水式會計製品 市 阿 鮮 專 屬 贩 寶 語 朝 鲜 專 屬 贩 寶 語

地心で總統の眞が人で、一般の一般に再び交渉が、一般の一人で、一般の一人にある。

原域帶京城五九九五章 原域府黄金町二丁目 京城府黄金町二丁目

でねばなられ

内容

10日曜北府

夢茸トニク

一、市街地計石原町沿地に開する一、市街地計石原町の特別の特別の

官田代中将は上山十後長町界東公 宋氏と會見 田代司令官 温水暖房ト 三階ノ新浴槽 一二階ノ新浴槽 大温泉ボテル 大温泉ブール

に時局に對する。地域交換を行つた 那個の機能に同動を契制すると共 電解けに着っ 一 語 大田

京城府明治町一丁川(交通所則)

a 秋岡商會

て存機中の師紡大田工場は恋よ雪 なった 出として建築

の市児

五參 間間間

五夕貳 山 圓 山 也 也 也

智

稍極 糸製上

供

小供百日咳專門薬

世天年八時解長

少尉(京城處兵隊不郎 步兵第七十七個 ノコウをとてよる

咳

飲ミ易イ粉末ニシテアリマス 効能顕著デアリマス高貴樂が生合シテアリマスカラ

最初ガー番肝心デス……シュノコンタ 小兒ノ百日咳ニ―輕イ内ニ シンコラ

各地築店ニアリマス 代理店 裝置新 井 樂 房



が米だ恢復せずーケ月の職務を必

月央に歸國 許支那大使

願はくば名刀鑑賞

値しのか

京城府黄金町三丁目水鉄町通り

府との間に新

人豫算を狙上に 都市計准的先頭総関は八日午後一 一、塩に助止に開する法規制定に時から耐煙磁報を開催 「シドニールは山田」は明神世界 なら非立態的行場である 組織業 の確立と、物質調整を主張目と 参加を促進する具能量、國際勞価機同にアジア諸國の 究會總會 都市計畫研 濠洲船悲鳴 アジア労働官議 八日府廳で Macanama の可能に似す組 埋かして平線から終南書を無 事大性を弾ました、本ホッとし □た▲と『おい君―窓廊に電話 を汚したが、一つこの 提習に暮くもあり照序からも一番末緒 割手乗らかにクといふ、何んの た井板君。 今度点城へ行つたら の前の登録が長倉職に行った時 とかと問ひただすとへっ置はこ

第二控室等四十名賛成を得て

價騰貴の控勢不變

・賣物價にも波及

職物原料、食料品等一齊高

は六品で保合は九品にして幣米、大「損象は移動しない場合があるが今ついて見るも競政は十五品、低落。罰物収高の際に比較して案外小段

低を一〇〇とする経路自三十億に一質物質に波及される場であり、所一たが、この西年約三十四国に船間

の敗善即も現在の小型漁船をディ

支部設置要望に

應じられ四貿協

此の傾向は何處迄續へ?

躍の途をたどつてゐる折核、繊維かなりの重階に取べて、さらに飛 多大の闘心を強つてゐることは既 その質地を期待するものである。 通商事務を翻記し、近く本府内に 間には既にアッア貿易の基點は半 過ぎず、むしろ釈説の海外部 刀の大旦低廉、しかも各種手工業 年間の生産品を如何にして統献 を闘つてゐるが、斯の如きは形 地上地下資源の豊富、

は足らない。既はこの減少の一 一立留で行はれた、耐して代理店商 朝鮮浦陽航路の金剛山丸は豫定の も尾行付きで領事との談話も屋行 ゲ・ベ・ウの検いに厳重で身體機 成成も歴史状態で部門自動では二 蘇聯は商船組を追放 國營で代行の方針



平南の卷

音劇器に挙手の答題を持つて歩む

り込んだ、膝助にずらりと居列ぶ 質を乗せた列山は耐く半地脈によ

元年平域の居留民際の總意によつ は侵吹くこの四月國幣小吐に列格

て設立し、昭和八年皇太子殿下御

に向け百粁除の延長工事に皆手す **大邱春奥地開設その他明白せる諸** 間約十九粁独軌)は今結氷期間早 班賽廳遊股分公司(咸北迴戎所眷

横線で朝野側ではこの成行を注目 **軍春鐵道延長** 打電製作の高め銀質所施商局では、関として施設が助することになった。

生命の流れ大同江

千六百年の夢・眠る大平原

3と次化の流れ入るコースとなってる | 鍵を避解して午後五時近次

一つには一店に適当させてあるといっこともせてあるといっこともなるをいっこともがある。 こんに である きゃにしてあるのか、とてつまらぬ 非利すら生んである、 若利すら生んである、 若

て、東語を美化すること、東語を美化すること用時に、公業の洞宮と用時に、公業の洞宮と開時に、公業の洞宮

解消に努めると共に覚

のことを営局も登業者には担富実き込んだ否には担富実き込んだ否のにはれる時

網督は今無浪襲平脱を見下ろう 今から千六百年前近の武器

下旬荷動狀況は前旬に引撃

が鮮内に於ける最大の規模であ現在朝鮮に於けるデイゼル船型 活法左荷動きを見せ来、視、楽、 活法左荷動きを見せ来、視、楽、 力、起材、雑貨楽相響らすが割で 本句の検送成調は二十九四十六日 九瓩であつた

夕刊後の市况

豫算の増收に苦慮中 大 1省を取正は帰係方面と抵制ので、 大 1名を取正は帰係方面と抵制のの大 方 ところ源工名では最新意味法の公士 が 中を映画は存敬せに内定した、現・ により高連維を解え、有名で取出。 は、1ので表示してあるが、有名で取出。 は、1ので表示してあるが、有名で取出。 は、1ので表示してあるが、有名で取出。 は、1ので表示しているが、有名で取出。 は、1のであるが、有名で取出。 は、1のであるが、有名で取出。 は、1のであるが、有名で取出。 は、1のであるが、有名で取出。 は、1のであるが、有名で取出。 は、1のであるが、有名で取出。 は、1のであるが、有名で取出。 は、1のであるが、有名で取出。 、五〇定春郷道四、六、五〇定春郷道四、六

面からも悪能的線層館の文部を設定を批があつたところ、別觀き天織方とを出張異に計興されたい間の申入工管出張異に計興されたい間の申入工

門品協館支部を設置し諸外回 態度場の中心地帯をなす毎川 艦上釜山在の理事上田錦一郎氏か過程開かれたる戦後韓原理事官の

金融債券の

風水害義捐

は極めて良好で現在一日一粁平均一出開頭と離散の景出等に大き

油鹽の船舶檢査問題

の協関としては組々善後策を誤っ

が完成すれば光づ軍春駅地の大規制を挽想されてゐる。今度の延長 收入は二十三国を超え明途征々好

面では大いに期待してゐる 割を果すことしなるもので網係方

漁船のデイゼル化

~鮮內造船所

様本から作った家のやらな大木

馬血壓を下げよ

0 障りを除 を下げ 1

生活を司る最も大切な役目を果してゐる、百歲動脈は血液循環の道路であつて人間五體の健康 を越ゆる老齢者でも動脈が丈夫で若い間は精 頭腦明晰、若い者に決して負けない

し腕力は別である。

野道局、月下旬の連権収入は広答

東京日日新聞の一月十六日發行の社會記事の ニュース籠で大阪某所で百十歳翁がカフェ 遊びと題して其質况の寫眞まで掲げてあつ 白十歳でカフヱ はいふまでもあるまい、又四十歳前後でも 動脈が便變してしまふと五體のすべてが衰 へて萎縮退化し百十歳の老者にも負けるこ 血壓を伴ひ恐るべき脳溢血中風を誘發す ることが非常に多い、殊に寒時は血壓が高 が此老齢者の動脈は必ず若くて强い くなるから一層の注意を拂ふべきであ と表際大で研究されてゐるこ聞いたが此ミトゲン線を 年の若い二十歳前後の異性の人體から發散するホルモ が多くある、のみならず動脈の硬變は高 るし未だ効果は實驗中である、さて最も簡單に何人で 異性から多く吸收することは或意味に於て不可能であ ン以上のミトゲン線を多く吸收すれば老年者は若返る 最善法は海草精粹から抽出した貴重薬を主體とした も自由に行ふここのできる動脈硬化の治療に豫防の

さて生體の各器官を破壞したり腦溢血中風等を突發 せしむる動脈硬化症をも期に起す の毒き硬化體質と卒中體質並に血統者等が大病毒としては第一梅毒鈴苺、腎臓炎、糖尿病等毒、電、肉食過多、毒、心身過勞の毒等の不攝生、

来を服用して御身の安全を闘られよ如き容態を自覺するから直ちに海費動脈が硬化して高血壓となると下記の

到 めま R

る」のである、海貴來は吐年老年者の保健の糧は自然に體外に排泄されて回答の喜びを迎へら て居る みよい錠劑で全國到る所の有名薬店にて販賣し で或は勝人に了らしむを思えば男女を問はずで蔵々幾十萬の一家の柱石を倒し或は黄泉の変数し冠狀動脈の硬化は狭心症の原因となる はず海貴來を持樂とせば腦に溢血した死血 って働くことが肝腎である脳動脈の硬化は脳 にいれてなることが多いから常に海貴來 ,るのである、肩の凝、中鳴、頭痛、重頭、 #くと一寸したハズミに破裂して雕溢血を突脈の硬化は腦溢血の前。であつて高い血壓 の生甲斐なき生活を送らる」お氣の毒な人 を祈るのである、不幸脳盗血を發作し半身 の服用を忘れ給はぬ様に而して御身の延命 の大黒柱たるべき人、壯年老年者は常に海 一葉として動脈を養生高い病的の血壓は正常 所謂健體築域の法として動脈便變を治療し の危険を生じ腎臓動脈の硬化は萎縮腎尿毒 血壓に回復し血液の循環の障りを除いて安 ン、其他數種の皇漢醫薬を以て複合した服 其成分の豊かなるヨード、ブローム、エ し血壓を整へ延壽の彼岸に達すべき羅針で

二、百歳入十一國、二子四百雄入 | 四、六百四十八韓入六國、牙百八雄入六國、牙百八雄入六國、牙四、四百八雄入

切の節は類似薬に迷はず直接本舗に御注文願 全國到る處藥店及びデバートにあります、品

ます。 日本總發賣元 東京市本郷區領坂町五十二番地 m 合

撒斯果京四六一八二番

交病理説明書御入用の方は 京城日報讀者上記入申込次第世品

人夫ミキ伯佐

のお話(?)お茶のお話(?) ろ、それではお郷のお酒(?)お花

お茶ですか、お茶ならばもよつ

とこれはまたが外た倒もほろ

茶は心の修養です

五四線〇

 根風は往々天才的

· 酸塚勘一郎

めにならないからそんなお話ならないでせる。なつても世のた 新聞一の材料にならな

お茶で濁した

して質つても

買ぶのと同様、梳髪なよい品物がら北月にかけて、製入用なものを

配ります、それは恰度、八月末か 人れなければなりませんが、こゝ

存 どは時によって五割も安 ・ モシャッ電手芸、靴下な ・ するには大変なクラダの

でいる質物月は冬物の場合のみに

めて危険で景気の整動をも考慮にせら、尤も買ふ品物によつては極

| なたら不数に聴はれるで | つかり春號に終つてゐるのを、大 | 甘は過ぎ眠冬號を探し歩いてもも然で見ばりを削ぎながきご。 さ』で質はせようとします、従つ | らその時は悪く、容器に手にはいがたも不数に聴はれるで | つかり春號に終つてゐるのを、大 | 甘は過ぎ眠冬號を探し歩いてもも は質物月といつたら、どしせい文機ひなどを行ふ、人流がすした相當感いからといつて、二月の

だつたら、それはむしろ不純幹な不用のものだつたり、不急のもの

一覧方といはわばなりません

ずに拭ひとつて、紫嶺クリ

脏した時に医脈く化粧菜えかいた

生活に適はしい程度に取らればなから、こうした複数は自分の經濟

つて見なければ物りません。ですぎの季節の場合の質権の實際にな

を同じく、 金利を計画に入れ、 次

てゐてもそれは商店の例 いと時機に買ったと思っ

らない、いくら安いからといつて

て金の間通か多少でも都合のつく

上手な買物の仕方

て買ふ

但し自分の生活程度を考へて

しても夏を超せない危機の

してしまはうとするのです、他つ あるものたどもあるので、非常な

金一物によってはいろ/ が経まりに関で、また を成しなくてはならぬ極くなどで、一年後の見をしか、なほどで、一年後の見をしか、なほかの危険に犯しても思言で大きの方を向がくるさで夢かせますがこれなどに極く酷れで、いづれもなるべく動物を避らにといっていたいと…なけ、昨年の夢あたり買ふのだったいと…な段音を外したお方がんつたいと、これは、1年の事をあり買ふのできるなけ、1年の大きなけ、1年の大きなけ、1年の大きなけ、1年の大きなけ、1年の大きなけ、1年の大きなけ、1年の大きなけ、1年の大きなけ、1年の大きなけ、1年の大きなけ、1年の大きなけ、1年の大きなけ、1年の大きなけ、1年の大きない。

の間からのぞく。くつきり白い様 化粧は駅ろしないはらがよいくら ❖女性魅力の第一❖ 自いえりあし どうしたら美しくなる?

々惜つて、あとヘコールドクリの名のもみにくいものです、時 **動作場** あしに生宅がはえて あらはすと云つて、外傾婦人にダブルチン(二面類)は年齢を

を飾る簡品は全部容易に移り、ま一足の魅力――どんなにお顔が綺麗。 るのものです、我は鏡とにらめつ 图書は图 つちりと合せた半排 でも、機足かきたたかつたら、お で見ることは意るものですが、機 足はお願以上に綺麗に手入れをい こをしても、衆外に禁足を合せ鏡

様は白のはもがよろしいと思ひま

白的の色は、お頭が眺色でも、

とのへます毎晩コーハドクリーム れですうございますから、第一に一ちのです 物でショールなどで首が膨れて流 くびすむをマッサージして肌をと ●厚圏 着をする準値はお話 行りますので、即色の自粉が尘掛 一十、近頃は半襟の自つぼい色が流 につきますと、とれにくして限る 粧なさらぬはらが宜しいでせる。 ●中国 年以上の方は、批化

ハユウメイ

サイミンギュリ

マカハンノ

で自動をとる時には、推定も同れ一選く自動をつけますと、背すもの

・、併してもでいた。 ・ は、一年や二年お費をして、格主せるといよ言葉かありますが、 と十年或は一生か、ると思いまで、格主せるといよ言葉かありますが、 と十年或は一生か、ると思いまで、格主せるといよ言葉がありますが、 と中年或は一生か、ると思いまでが発が、の気あがり方も知らない。 といよのは型だけで、格主せるといよ言葉がありますが、 と呼だといるのは型だけで、格主せるといよ言葉がありますが、 と呼びといるのは型だけで、格主を名といよ言葉がありますが、 よことが、人間修養になると思
利保宗匠が言はれましたとを宗とかいつで、私は一つのこ
参索がらいつで、私は一つのこ
ので、私は一つのこので、私は一つのこので、私は一つのこので、私は一つのこので、私は一つのこのでは、 利休宗匠が言はれましたなかに、

るのぢやないかと思ふのです と美つたりすることはこの茶道か らないでも宜しいと思ひます

-ë

流代

企业 ☆絞りの帯はそのましで 帖婦

し切つては絞りの縁がなくは億市に足りませんから、 たりまずし、庭宝つてゐて てアイロンをかけてのばし

そこで求のやうにすれば狂 前の狂ひが来て限ります。 は締めてゐるうちに伸びて るだけでしたら、アイロン 表に目立たねやらに隠しし まず、そして、細級りなら つけをかけてとぢつけます ば薄地の金巾を繋打して、 一尺位づく横に問稿を聞き ×磁々に大きな絞りがあ

りも伸びてしまはず仕立て 周囲をとおつけておけば近 ろだけに金巾を要打して、 をかけてから、彼りのとこ に容易です

ひもなく上手に仕上ります

×先つ要からしめつた市

すりこんで置きませんと、翌日化ずに拭ひとつて、影響タリームを てゐますから、マクサージの時に「すと、きめをこまかにした上に緣」汚れを落す作用があります、これ「臊くなつて、ちよつと耳かきを叫 らにこすりますと類が二重にな一のです。お顔は自味だけで洗ひま 照りこみ、砂をハタいて置きます り、石鹸の代りに塗つて洗ひ落す 白味も一緒にかきませて、難にと ウムといふアルカリ外機関が容易 くお印書や子供の耳に見受けます 白作用もあります、玉子は近時も一は灰の中に含まれてるる炭酸カリ 作に白くするには、玉子で洗ひまでこしたもので洗ひ物をしますと ます、綺麗に當つて、クリームを 版に自動が入つてみにくうござい さて、えりあしの無いのを根本 本 さなにほかして、その上流被を何 に水に溶解して清浄作用を起すか

はコールドをすりこみ間の端から

くびすちは誰でも脂肪が不足し

母の役へかけてマッサージいたし ます、この場合下から上へと押す

易うこさいますから御生意下さ

には資味も一緒につけたはうがよ 多く含んでるますから、えりあし すが、王子の資味にはホルモンを 極お 風呂から上つた時、 大・ 類してお茶碗に二十

中に水を入れて濃い目にとかし、れを今度はお皿がどんぶりの杯が適常と思ばれますが

からりしりの回り なる になります

|雨戸のレールなどに使つてある並手の金具や鍵(安全鍵)手すり、 事はみなさんも質慮されたこと ない事を死けで概ふと密外語も 具で、四通の錐巾では綺麗にとれ せんが、例へば水道隆、板川の取



料理メモ

し汁は水の十分の一位の割合で入柔かく早く煮上ります、なほおろ すが最初に大規卸しのしぼり汁を 然れば常る組織くなつてしまひき、良額で組、鳥獣の椋なものは、 入れた水で、ゆでてから煮ます



第一局

解說問答 計 步步 角

持時間各九時間

合

のである。
なかに、お茶が潤行的に出現性ん
なかに、お茶が潤行的に出現性ん

といふ佐伯京職道内務部長夫人に

と、はじめてお茶母と修養に就いです私はこれはそんな難しいこは割りませんがです私はこれは

になりつくありますことは驚く症 お茶といふと上流薬壁の遊びのや 私は等もお花も管つてはるますが

うに思はれます、勿論さらかも知お茶は

て次のからに闘って下さいました

んでるさす

一大一一によい事だと語れないが、このお茶は自分質りで

・ からかの低速としての選を 五人のグループに入れて戴いて訳 お茶を確されたわけです。 りますが、だち囁く知つたとい、からかの修整になります、私は四 と強調され、結局女都密の話しはといふことは大切なことではあ からかの修整になります、私は四 と強調され、結局女都密の話しは、1967・ 1

もやれまずしまた十数人でもやれ、も部の駆けてるます

修養一のこっとして今

是近私共婦人仲間に種々な思想

A『志楽者の四八銀は此處直ちに ではなからうか?』

域的方は「十二」後の少肚を以て昨年十月成日が上来に人民対地の領 要を建つた新進者数の技会で、 原底に田八克冀りの鋭、北美しは住 大天才的関わるがある。一方志摩 方は大衛門下の類単で、 反に原他 着質な抗量をもつて知られてある 个此の鋭新貨の一種はさせか

すと反抗を攻縮させ、力量の目を これも影響行下さいませ

に、開かに押すやらにし

厄介もの 利用法を考へれば こんなに役に立つ ,灰

の捨てられる灰も利用法さへ考へ 火」たまりすぎますと で、厚い醤用紙(古いので結構です)を適信なてる働きがありますので、場の番用紙(古いので結構でありますの

を指てるのに苦労いたします、

を水い間除らないと、コテノ マカイ~した紙になったことが で乾かしてごらんなさい、少し で乾かしてごらんなさい、少し からしたものを取り出し

は、マッチの鍛木に肚脂観を覆ぎ ので掃除すると、硬い耳あから つけて、それに灰けを含ませた れてもゾックと解いものです。

+++++ す、超額に限りま + 36 + 組合にも吹ばれま ・ 10 た異額の確を除く なく軟かになつて選ぐ除れる。

大人の終例を消ぐ 道行 とに蹴いて。道行

れを説明すれば、鷲面との唇根を多くするためですね(併成直染氏 ぞんじでせる、つまり科学的に のに使ふことは、窓い図の方はご













内に関する

あます。他

ルモンの分泌が整調されるのでお師は生えとした美しさで漉され、『心なべつで配えの婦人病は全身的抵抗力に溢出され、真の健康を俳、気 されて皮膚は自く能やかに、翻動たる音器やが約束されるのです。

組胎の活像なる活動を促し、野球代制機能を用めて抗病薬を均温でした時、奇勢、発 に吸収せられて、配行を胜んにしまりをボカボカと過め、

息こ 神下め 腰で 切り 色 腰に腹がま 冷 原でけ 弱痛・ひ 込

産業 原子・ヒ 月 遊 節を受いる。 宮・テ 不・頭。 産業 び 病・一順・痛:

(價定) 試用分子 20 3日分子 7 7日分子 1: 1: 2311 3,00 40日分子 5,00 85日分子10,00

MA 津 本店 村 順 天

本 álí

會樣 支店 電話開二五振者大阪四五六大阪市南區長城橋筋一丁目 電站日本橋六一振若東京六〇**八**東京市日本橋 區通三丁目

副作用のないのが特長 には男女共に良効を奏し

+



O is it

1 年 年 年 年

2146

美 川 『モチ共の意味も有るけど ロウラスんなは風邪引きの際防 性美の撤進力として、この中将ホントウの段的は、ネ、袈裟ず 湯を朝晩服んでるの』 に中將湯を服むのかい?」

ホルモン解制力とでねる ワマリ門服的健康美容法より な自然美の時代でせう今はど 山『中將湯の冷えを防ぐ力と 村『お化祖の美より、健康的

隊ーキス活日るあてしとうよ出にり滑ラカレコでん服を湯料中

反機する健康を-疾患を

の診所職から共の監獄を監認されてなる、対演後集を総合した難人養で、難申用監名 料中経過行処し、時間を動れて駆撃ある影響をが研究政策を進れ、撃撃と臨床といいが、対域して、一戦を治療しにする関で事になるのです。 寒 即けから原教へかけての強法をおして影響しの影響には悪べ、此のチャンス 寒 即けから原教へかけての強法をおして影響しの影響には悪べ、此のチャンス 一朝晚の 中断湯で培ひ 何時も張り切つて 常時女性の潑剌たる生活を樹立しませう!

| 日本でであるが、「日前の有力面」た前人からのでは強くので、またに関したではなった。と思ふった。というでは、こうでは、一日のを受けてあるが、「日前の有力面」というではなく。または民の生活を行うとなって、または民の生活をつくった。これに関した相談のでは、というでは、一日の表別のでは、「日前の有力面」というではなく。または民の生活を行うとなった。というであるが、「日前の有力面」というではなり、「大力を表面を指する」とは表でという。

「日前の有力面」というでは、著語のではなく。または民の生活を定といる。
「本)にいうのではなく。または民の生活を定といる。
「本)にいうのではなく。または民の生活を定といる。
「本)にいうのではなった。
「本)にいうのではなく。または民の生活を定といる。
「本)にいうのではなく。または民の生活を定といる。
「本)にいうので、よれば関本とので、は、一日の変してある。「一旦、一日の変して変し、関本の関係と対してある。「一旦、一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日であった。」
「一日の変して変し、「一日であった。」
「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日であった。」
「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日であった。」
「一日の変して変し、「一日であった。」
「一日の変して変し、「一日であった。」
「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日であった。」
「一日の変して変し、「一日であった。」
「一日の変して変し、「一日であった。」
「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日であった。」
「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日であった。」
「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日であった。」
「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日であった。」
「一日の変して変し、「一日であった。」
「一日の変して変し、「一日の変して変し、「一日であった。」
「一日の変して変し、「一日であった。「一思の変して変し、「一日であった。」
「一日の変して変し、「一日であった。」
「一日の変して変し、「一日であった。」
「一日の変して変し、「一日であった。」
「一日の変して変し、「一日であった。」
「一日であった。」
「一日の変して変し、「一日であった。」
「一日の変して変し、「一日であった。」
「一日の変して変し、「一日であった。」
「一日の変して変し、「一日であった。」
「一日の変して変し、「一日であった。」
「一日の変してなる。「一」」
「一日の変してなる。「一」」
「一日であった。」
「一日の変してなる。「一」」
「一日の変してなる。「一」」
「一日の変してなる。「一」」
「一日の変してなる。「一」」
「一日の変してなる。「一」」
「一日の変してなる。「一」」
「一日の変してなる。「一」」
「一日の変してなる。「一」」
「一日の変してなる。「一」」
「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一般では、「一日のなど、「一日のなど、「一」」
「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一」」
「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一」」
「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一」」
「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一」」
「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど、「一日のなど

歩前で頓挫した

で即は微地には相多額の費用を投合く概率の必要に迫られてゐるの 対照して密接な交渉ある道際含として映象される智の融合館支那を

道の明道選をしては西日本一を約一野なりも多り大野大量とり診察道提開きを行ふことになった、乗一個四条勢級師、選手計名など半島

【永同】那内の第二次初等数上版

不成功に終る

增設運動 龍化の學級

署長は腰側のあまり割け未費、選 深い道理閉ぎに参列模範試合を上 武道界の花形の大學来場この意義

集まりの悪い新義州の府税

創館、昔の道場の角をや

武道復興の係次をあげるカード

【仁川】青少年の非常時政治は一る昆耶なもので加勝氏、「鼠園首は」に十分である(葛真はは茂した仁

原館とが帰五段)

名も床し仁風舘と命名

紀元節に落成式

命場の始末

清州民間有志らの計畫を

食肉需果の改善、輸入馬には上」こつまはた調査の大学が、野大谷、展場の改善。」につき他を調査 邑當局に持ち込む

> 影物が旋断に潜てしるる元の数数 法せしめ交通物としての釣合も 世務署題合は現在の自然前

これは確かに妙案

(東驛内に水族館

長い停車に惱むお客へのサービスと

いして特職してゐる、而的者は無

極端的 ▲日之田(同青木知) ●中央(同村田学) ▲宮(同佐田学) ▲宮(同佐田学) ▲宮(同佐田学)

會は▲花房(分寶屋郷田御1)「菜、柳菜子都訓▲分留長には向井城一氏。四ヶ分「子、光川原子、花駅台分留は四ヶ分寶から成り、「大塚珍部質『天保

催災者救濟

竹即經歷、嬰氷事業を起す

方を交換したので母質局では目 には少なくとも一萬圓位に由他の施設をせればなら **研究中であるが邑當局者は**

の感覚でこれに對し民間間は自 局が乗り出て吐さへあれば眺望 なく、それに經験もないので仲間費を駆するが第一その財源も

研究の結果、如何に落着する 出目されてゐる

「仁川」署領生祭は十二年度の《 生一年々の別彼を聞立、この別 入網に基き形民間に置下住民の 保健衛牛陣

病魔驅逐

加から

税務署の標準金利と

もする、健つてその内容の正否 者の意志により何何徳の戸明で「午後七時路路、」同夕食を共にし 動がある、健口に債務者は待護「躬長、陸山文局長より標野より、

各位及び多大の支援を駆けった費(くやう職んである)

主川関に開いてゐる、

擔保物件の評價

利息の正確な査定はむつかしく

公簿によるほかはな

関本契(こといふ前村六犯の曲者 調べたところ京機坦生れ自確皮物 永同市場を銀網する怪しい男を取 整数製金三条地事が去る三十一日

脚の途中二十日に永同に立谷つた

シネマと演劇

生徒募集人、清州商業學

及び驛の移博、或は南須料金の一

的であり都市が最上心質な施設で一局では適可有効な能災者物が別数と角空市場の開設は市民要型の一な生活を設けてゐるので思北道書から角空は

金聯支部を移す 税務所は元穀檢跡へ新築

型音しくは施設として 型音しくは施設として 型音しくは施設として 型音しくは施設として 型音しくは施設として 型音しくは施設として 型音しくは施設として 型音しくは施設として 型音して 清州の有志が奔走

||陳館回側散地五月像坪に位く子二|| 井 (学)|||四 講評記 「天同」 北野祭郡高山州郡、満州忠弘末部はおりしておいた曹県書迎り現蔵家要

くつて採角の対応も植港した、しば、機械と来るに難きながら出版出来ないといる市場規則に引つかの循邦諸は「場だして衣は住を衛島生、市場無機は不実験的具外は「「清州」昨夏の島水部による数多

にも明るいものを感じさせる 助人研製の給奥人研収的信仰のを感じさせる 歴するなど、「川場が企働する 以職奨助人養殖場に備へる場合 使生計量にあますところないま 以職奨助人養殖期に備へる場合 関いるますところないま 機関を通じ着手することになつた 機関を測し、民衆警察の具別 者の削減を報道、それたくの

以級獎勵 本発験期に個へる場合 助。何期の信息へ通報的人資金 助。何期の信息へ通報的人資金 の菩薩(一面平均三子面位の制 當に依り面長順人の借入を送り 書版の用木投版、小作料の遊免 人政資用木投版、小作料の遊免 人の情報、小作料の遊覧 野の結果、今般

鴨江水産業紹介の二鳥案

一名を地域ですると共に備品を植って名を地域である地域ですると共に備品を植っている。 【清州】思北々部の阪舎地方既作 大樂、JO、ピクター合同超特担」前 災部同時上映《日話、協和紹作オールトーキー「地 雷

短知生の十二年度新財役として實 無料健康相談

所することなった無料府民健康相

窃盗行脚の男 【論】

は米海峡により一切の掘利、飛粉「大原】近米的内外に盗電が影い」のる てるたが幸ひ買ひ込んであつたの 異算を生じはしないかと心配され「便をかこつてゐる に膨近の建築材料高のためになった

受は今後、近郊が響、聯合館支部

地に支部を移動政策する条には

発走することとなった

四日本

を誇

川旭小學校 工事半年遅延

川ではお断

京城卸商の申出でを退け

|便をかこつてゐる | るが総形は戦闘の機夫となるばか | ので気度支生ではゼメル締つて、 盗電取締り

元計費中報化公野後は十二下度か

策を研究したが何等の成果を得す りであるが代表一同に目的を選せ一部常局に陸側したことは既報の選 子脳面し、去る三十一日間化公費

することになったか在町機定選牛 **心道しむ牛、紅角像が在れを養殖** を永同部内十一ヶ面六十二ヶ里に

尼厦一堡

1-

十五ヶ所に設定することになつた。息子で泉坡に行きたくて父親の金らポストが着値したので近く左のところ犯人は十六歳になる間人の に引換へ固縮な市外には運か十ケケ所にポストを設けてゐるがこれ の野人知識を全て、韓江越信局か、養に居に居出たが同名で取割べた るので今般、位置におけるボストの木和中にある並士三国を確まれ 所しかなく非常に不便を終じてる。 昼内照里季楽は玉乙三十二 犯人はわが子(孫門)

ら十ヶ年間に僅か一學級増設と開

悉夜寒に感冒召すな

◎ミツワ石鹼本館、東京・南國・丸見屋商店・薬品部

【清州】彰仮局では我在市内二十 郵便ポスト 「清解」道湖生語では来る十六日 豫防注射 畜牛氣腫疽

再三再四當局督促の揚句が 納税率やつと三割 勝縮·頭痛等による登勘疼痛の場合 應用さるゝ重實業なり 容明記 本邦唯一の ミック家庭展三十二方の内 アの日本八年 | 経痛等に因る發熱疼痛

T'263



醫學博士 相澤義雄氏談

の面的物材一干名に対し去当州「原、融合分離賦にすることに決し」映版「おもかげ」マルタ・エッケの面的物材一干名に対し去当州「原、融合分離賦にすることに決し」映版「おもかげ」マルタ・エッケの面的が関一の不を埋極まえ近。「てから融合分離組織を譲渡中であ」「花大人」演習主義、高粱電子、「京都州元前」の不を埋極まえ近。「てから融合分離組織を譲渡中であ」「花大人」演習主義、高粱電子、「

制工中館を含いであたが十一日の

方の御納書館一千名に對し去り卅

三百日で残り七百日は、「た領内 か合いまでの成権はザットも

んに際形せられ、間る重要せられて別が変別技権極くの帰の期に盛をよくする軽離を妨で、彩感に認 配には極れな有効整品を共内容とも合理的な魅力により、他の監視 取せらるよものよみ形もか果あり (削略) さて際の薬としては、市 のミッワ界病液でありませう。最 して居りますから、異別器の通り こ記めらるとは、ミック家庭薬中

て居る様であります。

(茶庭路車新報 二五八章 所被「鼻

より拔萃)

はな

ワツ 定價一切(船標付)四十艘。(建築B)付)七十台



理學博士 繁學士 小平助氏管骨製剤 は酒に苦しむ事無けん 子之の一壜あれ、然 た季節! 酒ある所 さけのどくけ

可制版配证

20セン・30セン

かありこれに對し職本氏より組合

なに太田氏その他より将死銀合に

太」が丹夷作監督 片岡子東壁二四代 毎日東近二四人日治中東ブロ 回 日治中東ブロ 回 年日治中東ブロ 変館 [11三] 五日・15三日

主

の単い変単では、全身の豪養をか、何よりも、本病者は、全身の豪養をから、常に気分を吹ったる。 始稿 類を駆する。 常に気分を吹ったる。 始稿 海を駆する。 中間 を取せる。 中間 を取りませる。

胃

胃下垂流ルショト

約一月量瓶金一圓五十錢—一日五錢の治療費にて足る効果に比し『ネオネオギー』の價格は驚異的至籐なり

一日五錢の治療費にて足る



胃腸病患の解説と處置法

·附・植物ホルモンの効果に就て-池

に羸弱者の参考と 本文は胃腸病者並

なるべし・乞保存

急慢性胃カタル

がにアルコーハウの攝取過度に因ってにアルコーハウの攝取過度に因うの後に思るものであつて、特に、禁物の所用、或はケテスのの耐息性性のの循取、有限性で含物、刺激性定物の攝取、保険となるであり、対象は発生、未熟の果性胃カタルは、暴飲姿食、未熟の果性胃カタルは、暴飲姿食、未熟の果

の内服を推奨すべきであらら。 ばならぬ、そのためには、値物チルモン 昂め、経療せる者は肥富するやらにせね

急慢性腸カタル

液を選することもあり、粘液便であり、上たる場合には震熱を伴ふ、便は時々に下痢を思す、赤痢その他の傳染清を症狀は一様でないが、まづ、腹痛と同 神經世に依ら下利もある。症状とし、 避れも腹痛、崩痛、嘔吐、思心があ 健伏は、液水便、軟便、水螺便等、 である。

あつては先づ便秘を治療すべきであらら同様であるが、便秘証と併せもつ思者に同様であるが、便秘証と併せもつ思者に 常習性 便秘

が、 がの多くは一時的であるが、これに對し がの多くは一時的であるが、これに對し で、常智性原格ともいふべきものがあり が、題状、簡子の他の疾患に存ふ便 があり、とれに對し

が、重記で下網が永引く時は、全身の設が、重記で下網が永引く時は、全身の設め、重記で下網が永引く時は、全身の設め、重記で下網が永引く時は、全身の設め、重記で下網が永月という。

とでころうとう。 できこう 引くこう 明と語ったの では、後性的カタルは急性から移行するものもある。 慢性的カタルは急性から移行するも

示す・勝下まで下板は重症 白點は勝部・中央は存権を

等する。併して、薬便の反動として下痢 頭痛、眩暈を感じ、食慾不振となり、疲 に困難を感ずる。隧瀬感があり、腹痛、 低通の回数が酔い。薬塊が硬く、排出 リンA書

た。と近り、世界の た。となり、また、観路により、全身のを極 を選めるから、せひ強弱の指摘法を指す が、です、電路の連邦は習慣性となるから が、です、電路の連邦は習慣性となるから です。できませます。

れるのである。

詩明な効果を繋げるのではないかと思は して、韓に、消化党決勝に割して、最もとしては、植物ホルモン本派の供賞より極めて腐乱のやうに恵祭されるが、自分極めて腐乱のやうに恵祭されるが、自分極め、北京の中では、東京の中では、東京の中では、東京の中で

2、 消化党送紙に對して、器師が採る手段 としては、その提供に應じて、健院消化 で 動車競技等を譲ずることあるも、大郎に 物工報酬を行ひ、後は自然治態に使 つ有様である。

の効果を検討されることを望んんで植物ホルモンの投展を試みのに躊躇せぬと同時に、全団ののに躊躇せぬと同時に、全団の、一般冒護原蜀者に本薬の股用

り 果は殊に自分が社目してみる處である。 似 然に に植物ホルモンの投票は、消化資飲を回復し、全身の豪養を最める物で、の機能を内面的に飲料する年用に依 の規能を内面的に飲料する年のが付く、 の規能を内面的に飲料するものが付く、

組織的に

回復

レントゲン寫真・健康胃『全治者』の

八横沿體とす 但し、キェニナギーの主効分だる機関し、キェニナギーの主効分だる機能があれてもと、極めて装液な膨胀にある葉像を同じに変換されてもり、私来の破りができるでは変換されてもり、私来の破りができるであるから、大概でよった。 しんしょ は できるできるである から で あまできるである うとだふこうとだぶ。 しない。 でけばない。 胃壁の患者にはおすすめ とない。

ネ

傑出せる品は必ず 八に認めらる

らせ、領報盟を現生せしめる作用をも「は、さらした素晴らしい寒物があるなりに、その結果、痩せた鰯は肥」どうか私共に知らせて頂きたい。私実は作に、官談そのものを火夫にし、複能・ネオギー以上の竪物が存在するたら、終痛のいろ/\なਿ説を良俗すると同一神になることはよくない。しも、ネオ級痛のいろ/\なਿ説を良俗すると同一神になることはよくない。しも、ネオ級痛のいろ/\なਿ説を良俗すると同一神になるとはよくない。しも、ネオスキネギーなる訳は、對談話に曾一したがら、如何なる場合にも獨り大 の多くは、低泉の観響道体製の配合を 1だけには、大きな期待をかけて頂くの多くは、低泉の観響道体製の配合を 1だけには、大きな期待をかけて頂く 9つくして失望せる人も、ネオネオギー - 歩も出ないものであることは、世人 - 関値があると、基実は壁く着にてゐるの勢くは、低来の側摩道倫敷の配合を - たけには、大きな期待をかけて頂く つもので、少くとも、在来の要値を漁

の知るところであらる。

すにも田子にも別ける

上から、胃臓病を训修したなら、二

 ○ 世紀に代としては、まづ、食経不振と
 ○ 大事に提せてくる。遠端方は失ばれ、すぐに軸る。それに、最相すると、、本事に提せてくる。遠端方は失ばれ、すぐに軸る。そうして明白な反動だけ、を傷を性態してすく、一度悪れは容勢でも、服用点は、金米動動との相違を、クテキリと最められると思ふが、未まり、保に響うしいのは、かの命取り傷た。キャギーは、財政性効果より、未まり、に治らない。
 ○ 雪幅放び 砂性筒カタルーー質説明ーの組織権向後に由る会身の起流が目的ら、
 ○ 雪幅放び 砂性筒カタルーー質説明ーの組織権向後に由金会身の起流が目的ら、
 ○ 雪幅放び 砂性筒カタルーー質説明ーの組織権向後に由金会身の起流が目的ない。
 ○ 雪幅放び 砂性筒カタルー・置説明ーの組織権向後に由金会身の起流が目的ない。
 ○ 雪幅放び 砂性筒カタルー・置説明ーの組織権向後におきなります。 されてぜひ徒されたい。

毎に一枚死添付中。 一般 で、創製元直接申込 で購求、創製元直接申込 で がまれるオギー」 一瓶 で に 一枚死添付中。

東京五六八一二番へ 東京五六八一二番へ 東京五六八一二番へ 東京五六八一二番へ 東京五六八一二番へ 東京五六八一二番へ **經旨人紗贈呈**

に自六十箇入約一月量金一圓五十錢、徳用三圓金一圓五十錢、徳用三圓金一圓五十錢、徳用三圓

購入に就

N1P-192

帝唯下御弟若沙然氏は、

厄家女中関重但さん(**)と共に督したが、京れ敬さんは一緒にゐた

の臭ひにピックリ、まだ皆々と歴 こある様な際さんをゆり起さんと

いので不能に思ひ願さんの部屋を 「腹さん」、かおそくまで起きな

和省などでは内々その候補 国大側的及わが国内省、陸 国大側的及わが国内省、陸

用地買收折合はず 路線變更を願出

歴地の用地質吹中であったが、用とに決党、五十郷直局に路が歴史・八五〇キロより四七・11日〇キ」にむなく正事(二十六百周を申録)の人五〇キロより四七・11日〇キ」にむなく正事(二十六百周を申録)のこれを設定が認識値を述めて川起窓門五(戦らず途に交渉は決撃、繁年間は東京東郷道では水賦、口川間の水に | し晩時間は「萬四千面を断執して

を反映したのと、 時々代の敬頼思想 数へた で飲め渡地を示し

一月は記録破りの十二萬五千人

至認は「空北層に盛んになり、この時局色を反映して半島県生脈の航

の総式を助政すべく同部自動地級用地十種が折刊されてゐるが、

て来たが、こんと同大学航空部では 屋の研究と訓練に多大の貢献をし で 法文学的教育が高地士は歴生のこ

城大航空部へ

電車の追突 泉城驛前で

買兄宅の裏井戸から

ロンとも砂様し三百国はの状態で聚 は行き歌唱二三二五號が正笑、双 古一七八五電唱に遊びかけて来た淡 安全地がに停止してるために行き 関はあとから東た電話が呼ば中の 答の古市町一二小中方届公具姓女 五日午期十一時四十五分五坂野 一名がいづれる場ば、受けた、取

企业

8

電機學校盟休

跡を絶たり

十までに川答を得たかつためで観 候例政務の二要求を提出、五月正 「新華女女田売氏に對し種ない。」 個科一年の現場、未郷生 城古市町仏主景城常柳原校芸師

明然何門上五丁首於明局八一日 下水ルム二十銭分、柳を間信町





を信ける 京城南大河上

女



松島を敬遠

者としてわが消滅の間に置 能、女子崇歌院山身の才概 此の最女浩子號で本年廿四 氏の最女浩子號で本年廿四 であるが卵辺可あり次須近 は都常上華飯中の名門機械に至った、この名誉の女性

嵯峨侯の令孫浩子孃

かわて日本女性との御結ば

気に恨みあれ 灰酸ガス中毒の死亡者

人は百国継賓金田で埋査中の少平一節氏宅裏非片の中に死還となつて一人は百国継賓金田で埋査中の少平一節氏宅裏非片の中に死還となって一〇質兄兔岳一人は一旦を表して家一出度ころ領路六ノ二一〇質兄兔岳

化體となって發見

つ大のタドンをオンドルの火線に、駆けられたと思ふ削しなく去るは、間くも死し、た記漢事が思り一般、劉明二八六ノ七金集造さん方で九、に火線は危いるの健康信息が高く、中とがニッ大の健康ガスに問され、曹子平へ日丘城第、劉撰二、を突む。諸関のオンドル、『帝の少な(女子師襲)年生)とと

全生徒にする

徒と女中が死亡 兎狩りを樂しみに寝

一夜の事

敦義町の下宿屋で

業、周校に入場したもので成職も人を源増してゐる今七八朝隊並行歌花嫁行週面(川)一位午後一時から行ふことしなった一位午後一時から行ふことしなった

う」と、かけつける波友強は何れかれたらどんなに思しまれるでせ の出版に語さりまで!なさんが に頂され、「郷里のお母さんがき も以く、里符から配った友達はそ は親しい数を遠にまもられて歌し 日朝から解け始めてスケーターをは七日午後一時則記自宅に於て鉄 氷に乗るものがあつて危険干萬な 悲しませてゐるが、中には無難に

スケート罷り成ら

数は一月末収金内地人四萬七千四四年に於けらラギオ龍取励設許可

總裁は松平伯か

男女中等學校の教科用圖書の圖

元質、量化調売制度を進めつるあ るが、これが地理と共に朝鮮国自

農家一戸當り

三石目標に奨勵

京畿道の備荒貯蓄

近く正式に詮衡

九十六人、頭蛇人一鷹十千百三 は去る四は午後四時京城市内以歌 李完簽子留 李完館于假

に作ふる位置が、度が動動に関する様で、度があいて、影響を明 龍、前線が、メリカの、シリーが発達芸術が、日本の、 といて、影響を明 龍、前線が、リにおいて、影響を明 龍、前線が、リにおいて、影響を開発して、

銅製六十貫の大注連繩 大阪の商人が出雲大社へ奉納

工師の手で製作を急いでみたが、選挙に出来上つた、この

は第一副認識たるオランダのウッ (第十五、六ヶ月前にア四部認定版) は第一副認識たるオランダのウッ (第十五、六ヶ月前にア四部認定版) 上となった (東京 日本の上大佐と実統せしめる) (第3か行はれず数に基金発展から級 (第1年) ととなった (日本の主義 長辺平埔海日が国際戦争記念に取るとして、大佐によると歴 長辺平埔海日が国際戦争記念に取る。 (1941年) 日本の報である

朝鮮神宮参拜者

尾高博士が 自動車寄贈

明明指列手成名目と終文名の選手数の停止ス線合終了ノ日迄株式名義書数の停止ス場合終了ノ日迄株式名義書数の停止ス

滿洲電信電話株式會址

株式名義書換停止公告

照料コムラ病院

醫學學小村 榮三

は 動の市内に特通せる者自新履歴書 の市内に特通せる者自新履歴書 の大人・小符旦侵遇す

は實に四十冊に及び、これに敬助

第一番 塩井醫院

京口案内

外交 送出等面質無常以致 在動物に居らる付針、月数十時道 では明有別九時より電十時道 のの外交として現 のの外交として現

特別等内

(を14、466m以) 理学品高級政策を はならなの場の場と

該ありたり担心内則人住込の方と

京城郷副産

西 公開を常問屋 工州屋本度 のも背着の上側宮立首委します。 京城吉野前一ノ九一(市本六九1 京城吉野前一ノ九一(市本六九1 東京市・川東京市・大大1

私がお嫁に 行ったなら 歌 製 選子 位 禁

業 器探 型を求む生後一箇月位の乳化 □田 保 **M**

作曲、整架軽音架(放送時間、生り、方を開発している。 音樂個人教授

朝比奈

時間場合高等住宅地時調時間場合高等住宅地時調時間場合高等住宅地域が表面度 世光等空間、水準減等を超過度 世光等空間、水準減等を超過度 明日、他上分分類方面分面が 三十億日一百年内外 一十億日一百年内外 解質男グル石部(柳末第22) 解質見選用が所又、

は会似生徒により一層注意する がは会似生徒により一層注意する がはため、数支達の受けもよく、 のでした、数支達の受けもよく。 のでした、数支達の受けもよく。 のがにも大の知符をかけられて あずにも大の知符をがけられて あずにも大の知符をがけられて あずになれて、数大達の受けるとない。

國防婦人會聯合分會で

時節柄の思ひつき

蒸を御披路

各家庭でも注意

別山下脚突主性は纏っ が成づか、一寸した不住がか にんたが開かる言葉されずり、 日本ったらこれに関する主意が 用来ったらこれに関する主意が 用来ったらこれに関する主意が 見をして、子目に配布、コ 更さんたが開かる自立のロッうにし またしたでは関がるといる。

媚人門原規聯合分簡では門にてそ んをなぐさめ、せめて銃災の徴力 を確さるとつさしい心根から例的 どの演奏で、兵治に 流行歌、小田、宝色に

の家族がこぞつて身に帰乏た素人

太平通り二丁目音 物間学二岁氏方太平通り二丁目音 物間学二岁氏方 靴盗・損ね 以城場計劃

言腔めた虎の子六十五国を主ん

のか、機利の際同人の比の 続背の整備を終へて励る途中の デッと見つめてみた何ひ所語の して来て、死んで仕舞ると言ふ

中には彩色畵まで入れた

本府學務局の努力

別に及ぶ

別空地區、初空地科語、區鑑一年別空地區、初空地區、初空地路、図鑑一年

開始県民使用政治書の原稿書の 「日本年、開邦鎮子籍」 加を開れる新刊し次いで 関す、「三年年、開邦鎮子籍」 「西北東京 「西北東子館」 「西北東子館」 「西北東子館」 「西北東子館」 「西北東子館」

けふの天気

昭中が野事してと見扱ったため 一門の脈が光つてあるとも知 が明都から開城

·二四·三回·五四·十四

各地薬店にあり

を解消

水

製造元

Ш

本

回

生

堂

朝師代現店

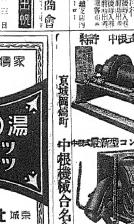
京城本町 木

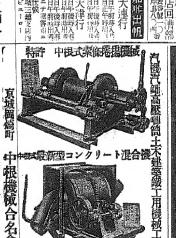
村

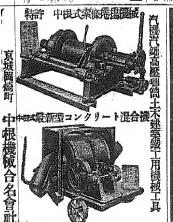
藥

房

四五七四







高歩当トニクロデ

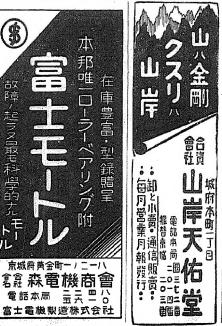
有启蒙名著及店债首 意 汪 名 邑 似 類 气

බව ලබ යන ලෙන









病者の治療上

母染性疾患の熱發に適應す

アルボン・チバ

各國の治療界に益々整價を高めつよある所以なり

らるとに至れ

確認せらる >

誘起するもの

お茶は本町五清元園

が出て疲れませぬ。脚常用になれば根築 用と外用の二種類

作

用

あ

る

解

熱



更に鈴木博士及び加藤學士の廣汎なる研究の結果、この白血球増加作用の顧著なるは多年一般に知ら 一大福音で謂ひ得べし。本剤は又膓テフス熱・流 あるに反しエルボンが増血作用を有する事は結核 9。 對症的解熱劑の中には血毒作用を示し貧血を に及びエルボンの治療的價値が一層大なるを認め顯著の赤血球及血色素の増加作用をも有する事を **」特有の作用は模倣品の追從し得ざる處にしてこ** ド西端ルビ和三町五區東市阪大は蟄明税 星廊りよ部務學本日社會業工學化ルセー

店前衛兵長田成前令式株 元曹敬 店職代総本日 兵三 • 図為 • 新西小 京宴 • 店約袋